

「40歳からの挑戦で 広げたライフワーク」

元静岡県職員

川島安一さん (63歳)

平成20年4月定年退職

昭和22年静岡県出身。昭和45年4月静岡県庁に入庁。平成20年4月に定年退職後、同年7月より静岡県農業信用基金協会専務理事、平成23年7月より静岡県信連員外監事。国立大学法人静岡大学客員教授、磐田市自治会連合会副会長も務めている。

ブログ「山草人のモノローグ」

<http://y-kawa.cocolog-enshu.com/blog/>



——ライフプランはいつ頃から考えられていましたか。

私は40歳の頃、自分の人生設計を大きく変えようと考えました。それまでは仕事と職場の人間関係で一日の大半を使っていました。朝は7時に家を出て1時間半余の通勤、帰宅も21時前はほとんどない。そんな日々が続く中「このままでいいのか？」という疑問がありました。そこで仕事一辺倒の生活から、厚みのある生活に転換したのです。

——厚みのある生活とは、どういうことですか？

具体的には「作る」「書く」「走る」「会う」の4つのテーマを設け、実行しました。

「作る」とは、自分で農産物の生産を始めることでした。我が家で使われなくなっていたガラス温室を改造して葡萄を植え、現在では4棟の温室に9品種を栽培しています。他にオクラ、白菜、キュウリ、ニンジン、馬鈴薯等も作っています。灌水や誘引やら出勤前に作物の手当てをしなければならぬため、朝早く起きるようになりました。

「書く」とは、隔月発行の同人誌『農の風景』に欠かさず寄稿することです。これにより外向きに情報を発信する度胸と考え方を養うことができましたし、県庁を退職するまでに2冊の本を自費出版することができました。定年の約2年前から書き始めたブログ『山草人のモノ

ローグ』は既に1900日続けていますよ。

「走る」では、インドアの生活からアウトドアに切り替えることを目指しました。それまでスポーツにはほとんど縁がなく、強いて言えば付き合いゴルフくらいでした。ランニングを選んだのは運動神経に関係なく誰でもできるから。まず昼休みの時間を使って、県庁に隣接する駿府公園の堀端を走り始め、次第に走ること自体が面白くなって、地元のランニングクラブにも所属しています。

「会う」では、仕事以外の研究会などに積極的に参加して、多くの人と出会うことを目指しました。例えば、お茶と水に関する異業種の人々の勉強会や、お互いに自分の得意なことなどを教え合う大人の学校「面白人立めだかの学校」などに参加しています。これにより多くの知己を得てきましたし、現在も様々なお付き合いを広げています。

——地元ランニングクラブとは？

「小笠山RC」と言って小笠山の尾根道を走る仲間のネットワークです。規約があるわけでも会長が決まっているわけでもありませんが、忘年会やマラソン大会への参加など皆で楽しくやっています。マラソン大会に出ても一人より大勢のほうが楽しいですし、日々の練習でも仲間がいると楽しんでできますよね。共通の目標を設けて競い合ったり、励まし

●1日のスケジュール

5:00	起床後ただちにガラス温室で葡萄の管理作業
7:00	朝食等
7:30	通学路の見守り活動
8:00	新幹線で静岡市へ出勤
9:00	職場で勤務
17:00	新幹線で磐田市へ帰宅
18:00	ガラス温室で葡萄の管理作業
19:30	夕食等
20:00	ブログの書き込み
22:00	就寝

右端が川島さん



ブドウ温室にて

●1週間のスケジュール

日曜 午前	小笠山にて定例のランニング
午後	自治会関連の会合等
月曜～金曜	1日のスケジュール同様
※夜は週1回以上の会合に参加	
土曜 午前	小笠山にて定例のランニング
午後	農作業や各種の会合



富士山頂往復マラニックのスタート（田子の浦港）を前にして仲間とともに（最前列右から5人目が川島さん）

合ったり。だから、私の友人の多くはランニング仲間です。

45歳の頃、準備期間2年を費やし「八ヶ岳野辺山100kmウルトラマラソン」を完走して以来、100kmマラソンにも挑戦し続けています。はじめは10kmレースでしたが次第に距離が伸びて、今では年3大会はウルトラマラソンに出場しています。体調が悪くてリタイアしたこともありました。基本的には完走していません。

八ヶ岳100kmレースの10回以上の完走者に与えられる「デカフォレスト」の称号も頂きましたが、それ以上にランニングによって何事にも積極的になったのは大きな収穫です。体調も快食・快眠となり良いことづくめ。手軽だからと始めたランニングが、現在では生活の一部になっています。

——**県庁を定年退職後、お仕事はどうされているのですか。**

定年後より静岡県農業信用基金協会で専務理事としてフルタイム勤務してきました。仕事はプロの世界ですから一切の手抜きはありません。現役時代との違いを強いて上げれば、残業をしないことくらいでしょうか。

協会の任期満了後の今年7月からは、静岡県信連の非常勤監事の他、学校法人の理事なども務めています。

——**定年退職後に始められたことはありますか。**

自治会の地区長を務めた2年間、安心安全会議の設立などに関わってきたのですが、人に言う前に自分から行動しようと考えたのがきっかけとなり、子どもたちが安全に登校できるよう、街頭立哨を始めました。それ以来、毎朝雨の日も風の日も旗振りおじさんをやっています。

——**その他にはどのような地域社会活動をされていますか。**

市自治会連合会の副会長及び支部長、市民生活安全部長として、月に少なくとも4日程度は費やしています。また、これに関連して各種の役職も委嘱されていますので様々な会合に出席しています。

——**最後に、現役の地方公務員にメッセージをお願いします。**

公務員の仕事と生活はとかく冒険を避けがちになります。しかし、人生は氣息を消して生きても仕方ありません。自分と言うものを自分で見出す外向きの努力が、道を切り開くと考えています。

私も『農の風景』に寄稿を始めた頃はおっかなびっくりでした。しかし、人の目に触れる持論を展開することで次第に自分への自信ができてきました。何事も臆せず前向きに続けることで、次の展開が開けてくるのではないのでしょうか。継続は力です。